大銀杏

第56号
令和6(2024)年
7月16日

藤嶺学園藤沢中学校・高等校
新聞部
(高校)
田中湧大 植竹隼也
川村一愛 高橋航之介
古谷貴一 長谷川望人
平川慶明 高須祥栄
堀竹涼平 塩見耶摩斗
経澤悠希 稲生海凪
(中学校)
中原圭太
村瀬弘旭 石﨑航成

題字 東山右徹先生

3回戦圧勝 宮澤 草野好投 8安打7得点

3回戦横浜翠陵戦は、7月14日、横浜薬大スタジアムにて小雨の中10時に開始された。結果は宮澤-草野両投手が雨の中断もあるなか力投した。攻撃では8安打7得点と横浜翠陵投手を攻略した。

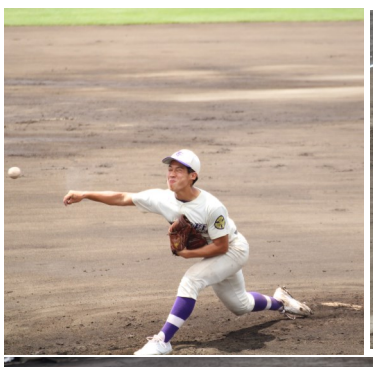
3回戦	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	H
藤嶺藤沢	0	2	4	0	0	0	0	0	1	7	8
横浜翠陵	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	3

BATTERY： 宮澤 草野投手 － 片岡 今野 捕手

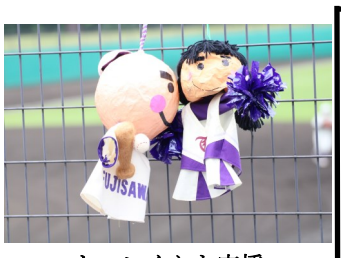
選手を後押しする勇姿

2回戦に続き、スタンドの野球部を中とした応援団の声が選手の攻守を支えた。吹奏楽部、卒業生、野球部員保護者ほか大勢の藤嶺応援団も、選手とともに理想を掲げ熱い夏を過ごしている。【川村 堀竹】

ベンチの明るさ チームの力



（投手:宮澤6回2安2振、草野3回1安1振）
（攻撃:3塁打片岡、2塁打小山田、単打小山田、花田、大石2、小野、近藤、盗塁大石、小山田）



トーレくんも応援

8回裏見事なﾀﾞﾌﾞﾙﾌﾟﾚｰ(撮影古田先生)

教育実習生から後輩へのメッセージ②

5月24日から3週間、4名の卒業生が本校で教育実習を行った。前号に続き2名の実習生からの文章を紹介する。

立石 侑大先生

高校1年歴史総合を担当させて頂きました立石侑大です。

教育実習で皆さんと過ごした時間は、私にとってかけがえのない経験となりました。実習期間中に実施された体育祭や説明会など様々なイベントを通して、藤嶺にしかない良さを再確認する事が出来ました。また授業では、生徒皆さんが積極的に参加して下さったお陰で私自身も楽しみながら行うことが出来ました。本当にありがとうございました。

藤嶺生の皆さんへ、何者にでもなれる力が皆さんにはあります。仲間と助け合い、困難を乗り越えることで、未来への道は開けていきます。自分を信じ、挑戦を恐れず、一歩ずつ前進してください。藤嶺生の未来が輝かしいものであることを心から願っています！

藤 海州先生

この度の教育実習では、多くの藤嶺生に出会い、素晴らしい時間を過ごさせていただきました。特に、数学の授業だけでなく、バスケ部にOBとして毎日参加し、体育祭ではダンスや仮装リレーに一緒に盛り上がったことは忘れられません。元気でパワフルな皆さんの姿に、私は毎日励まされました。内気な私にたくさん声をかけてくれたこと、本当にありがとうございます。「何事も全力で！」という言葉は簡単に言えるけれど、実際にはとても難しいことです。でも、それを実行できた時の楽しさは格別です。私もまだまだ挑戦中です。今後も、学内外のイベントに楽しんで取り組んでください。そして、今後の人生でも、さまざまなイベントや困難が立ちはだかることがあると思いますが、その時は「見る阿呆より踊る阿呆」の精神で、積極的に楽しんでください。

これからも皆さんのことを陰ながら応援しています。

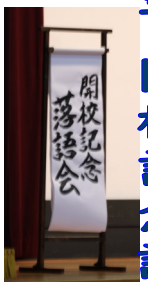
創立一〇九周年 開校記念講演会インタビュー③

立川志らら師匠 立川らく次師匠

5月15日、本校卒業生の立川らく次師匠、立川流兄弟子の立川志らら師匠をお招きして開校記念講演会が行われた。落語会の様子や会後のインタビューの前半を2度にわたってお届けしてきたが、本号では、なぜ落語家の道を、そして藤嶺生への熱いメッセージをお届けしたい。

記者「次の質問お願いします。大学に入ろうと思った理由は何ですか」

志らら「本当に入りたかった大学はあったけど、関西の大学も考えたけど、専修大学ともう一つ受かって、専修大学に進学した。高校も大学も一番行きたいところには行けなかったけど、大学1年の時落語家になろうと、落語家になるところで一番行きたいところに行けた。学生時代は一番行きたいところには行けなかったけど、落語家の方が長い時間になっている、27年いる落語家の時間が楽しい。高大の3年、4年が楽しくてもその後の仕事で面白くないのも。だから何も後悔していない。戻りたいという日もない」



記者「落語家になるときに誰かに相談しましたか」

志らら「していない。父親は民間会社の技術研究職で、母親は看護師であったけど。大学生になった時、高校時代を思い出し進学させてあげたのだからしっかりとした進路に進みなさいと言われるのが目に見えていたから。大学1年の時に落語家になろうと決めていて、大学1年の科目はすべて単位を取り、調理の勉強ができる居酒屋さんでバイトをして、家で調理師になると言っていた。調理師になるために、大学を続ける必要はないという話しにし、大学を辞めた。高卒になるわけだから、普通の就職は難しい状況となり、なりたかった落語家になった。当時、母親を落語会に連れて行き、志らく師匠の落語をいっしょに聞いて、志らく師匠の落語面白いわよねと言わせ、調理師ではなく落語家になりたいと母親に伝えた」

記者「落語のような話しですね」

志らら「孝行はしているんだよ。調理の勉強で、共働きの両親の夕食を作っていたから」

らく次「作戦がうまいんですよ。僕だったら失敗したらどうしようと考え、悩むけど。志らら師匠は、作戦、どんな状況になってもその状況を計画していた。居酒屋さんでバイトしていたことも酒飲みを観察できて、落語につながっていると思う」

記者「最後に、藤嶺生に一言お願いします」

志らら「歴史ある伝統ある男子校で、これだけ同学年の仲間がいると、在学時代あまり話しをしていない人もいると思うけど、卒業後に「藤嶺藤沢卒」という人に会うことがあるから、歴史ある男子校というものは、絶対自分に戻ってくるから、あまりアイツ嫌いだったとか友達少なかったとか根に持たない方がいい。一学年違いとか、同じ中学、高校出身ということで仕事でも関わりを持つことがあるし、力になってくれる場合もあるから。仲よい友達というのもあるけど、同じ学校出身ということが、強みになることもあるから、学校を誇りに思って、歴史ある男子校を思って、頭の片隅に入れて色々な事をやっていったらいい事ありますよ」

らく次「たぶん。藤嶺に限らないとは思いますけど、今、兄さんが言っていたように、貯めている時間なんですよ。僕は、例えばコロナ禍で3か月ただ家にいた人、と3か月後のことを思って準備していた人とは違うと思う。3年間で部活を一生懸命していた人とそうではない人では違う。部活でなくとも、好きな音楽を聴いている時間など、40歳になっても高校時代に聞いた音楽を聴く。貯める時間なんですよ。すぐ結果は来ないんですけど、卒業後、何か引っかかることが起こってくるのは間違いないですね」

志らら「デーモン閣下とやくみつるさんが高校の先輩なんだけど、お二人が言っているのは、通学時間が長かった、2時間以上の通学時間に相撲の本ばかり読んでいて、今は相撲の仕事をしているでしょ。だからその時、将来相撲に関わる仕事をするとは思ってなかったと思うけど、今は相撲の仕事をしている、例えば今から相撲の本を読もうとしてもそんな時間はない。今の時代は、スマホで調べられて便利だけど、ピンポイントで調べられるのはメリットだけど、それ以外のものが目に入らないというのはデメリット。本屋さんで、植木の本が目に入ったとして、その中で面白そうなものを見てみるけど、ネットは出来上がったものしか見られない世界。好きな世界を調べることはできるけど、嫌いなものを好きになることはない。食わず嫌いというければ、そういうものが好きになることもあるのよ」

記者「わたくしもそういうことあります。好きではなかった漫画だったんですけど、その漫画を読んでみたら好きになった」

らく次「どんな漫画？」

記者「ドラゴンボールです」

らく次「世界で一番有名な漫画じゃねぇかよ。世代じゃないから古典みたいなものだよね」

志らら「嫌いな、嫌なこと言ってくる友達も、わからないんだよ、どういう関係になるかは。何かのきっかけですごく仲良くなることもあるから」

らく次「あと、校長先生、林先生の凄いことがあって、凄いいいこと教えてくれて。高校時代にね、林先生は英語の先生で。ある時、放送で林先生がアントニオ猪木について語って。熱く語って。それを聞いた俺は、好きなものをこんなにも熱く語れんだ。当時の俺に響いちゃって、そこから始まっているのもあるのよ、俺。好きな事をとことんまでやろう。今の仕事に繋がるんだけど、マニアックな性格にも繋がるんだけど、好きなものを掘りまくる。時間がある今、と志らら師匠が言ったそれだけだと馬鹿になるから、知らないことも見ておいた方がいいよという、両方だと思います。3年間時間があるから。失敗したのは、3年間男子校で、大学に行って急に女子がいるとドギマギした。皆さん女性に注意してください。3年間男子校にいると女性への術を知らないから」

志らら「俺みたいにストーカー扱いされることも気を付けて」

らく次「女子に話しかけられただけで、この子は自分のことが好きなんだと思ってしまう。気を付けてください。まず自然体にいること、にやにやしないこと。大学に入ったら清潔感を保つ」

記者「髭は剃った方がいいですね」

らく次「そうですね。男は眉毛と髪型で変わります。一回、床屋ではなく、卒業したら美容院へ行ってください。美容院で卒業したんです、いい感じにしてください、というと美容院はやってくれます。こっから初めてください。美容院に行くと自信が増します」

記者「本日は貴重なお話を有難うございました」

【川村 古谷 平川 村瀬 石﨑】